



国民の森林・国有林

林野庁  
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5  
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



上高地の記念式典でごあいさつされる皇太子殿下

## 初の国民の祝日「山の日」上高地で記念式典

山に親しみ、その恵みに感謝するとともに次世代へ引き継いで

主な項目	○ 初の国民の祝日「山の日」上高地で記念式典 .....	P2
	○ 各地からのたより .....	P4
	○ シリーズ「森林官からの便り」 .....	P7
	○ シリーズ「ご当地自慢」 .....	P8

# 初の国民の祝日「山の日」 上高地で記念式典

【中信署】八月十日及び十一日の両日、初めての国民の祝日を祝う第一回「山の日」記念大会が開催されました。十一日の午前中、北アルプスの玄関口上高地において記念式典が、午後から松本市の市民芸術館において祝祭式典が開催されました。



上高地での記念式典「未来への誓い」朗読

当署では、第一回「山の日」全国記念大会を迎えるに当たり、各種会議、イベントにおいて「感じよう、山の恵み、森の恵み」の幟の掲揚や法被の着用、官用

車にステッカーを貼り積極的に広報活動を行い大会を盛り上げました。また、第一回「山の日」全国大会の運営委員会の一員として、大会の成功に向け活動を推進しました。

記念式典が開催された上高地は、穂高連峰がはっきりと見渡せる晴天に恵まれ、多くの登山者や観光客の姿がありました。記念式典では、皇太子殿下が「山の日」の誕生を機に、ここ上高地から山の価値を国内外に発信し、多くの人が山に親しみ、その恵みに感謝するとともに次世代へ引き継いでいくことを願う」とごあいさつされました。また、地元小学校の六名が「山は私たちの宝物。きれいな山、自然や文化を守るために、自分達にできることから始めましょう」とする『未来への誓い』を朗読しました。



上高地会場のブース



松本城会場のブース

祝祭式典では、歌詞を一般募集して作った「山はふるさと」を地元の波田少年少女合唱団により披露されました。最後に松本市長より、来年の開催地栃木県の環境森林部長へ、山をかたどり作成された「山の日帽」を手渡し式典が終了しました。

記念大会の開催期間中、中信署からは、スタッフとして参加するとともに、上高地と松本城会場にそれぞれブースを設け、山の日PRに努めました。今後も、多くの方が山に親しんでいただくとともに「山の恵み、森の恵み」を感じていただけたらと思います。

## 中部森林管理局総合防災訓練 開催される

【企画調整課】九月一日、中部森林管理局において、総合防災訓練を実施しました。

管内で発生した近年の災害を振り返ると、平成二十六年七月九日の南木曾町土石流災害、八月十五日からの高山市等の豪雨災害、九月二十七日に発生した御嶽山噴火災害、十一月二十二日に発生した長野県神城断層地震災害等が挙げられますが、中部森林管理局では、その都度、災害対策本部を設置し対応してまいりました。

今年度の訓練では、大規模地震発生による停電や通信障害等を想定し、①災害発生時における迅速な本部体制・機能の確立、②各署等との連絡体制の確立と円滑な情報共有、③全職員等を対象とした安否確認の達成の三つを目標に掲げて実施しました。



実際の災害時を想定して本部設置 (訓練)

具体的には、本部付職員の徒歩等による参集、発電機によるパソコンの稼働、衛星携帯電話による署等との通信、伝言ダイヤル等を利用した安否確認、関係機関への職員派遣やヘリコプターを活用した緊急調査のシミュレーションなど、実際の災害時の対応をイメージして行いました。

今回の訓練を通じて得られた改善点については早期に対応し、有事における迅速かつ適切な対応が行えるよう、取り組みを強化する考えです。



本部長への報告 (訓練)

**森の大切さを学ぼう！**

**夏休み親子体験セミナーを開催**

「名古屋事務所」夏休みも終盤となった八月二十五日、「熱田白鳥の歴史館」において、一般公募により参集した親子を対象とし、「いま、日本の森林はどうなっているのだろうか？木を使って環境を守ろう」と題したセミナーと、「FCA」



セミナーの様子 森林で仕事をするために！

(フォレストサークルあいち)の協力を得て、木工クラフト教室を開催しました。

この催しは東海農政局「消費者の部屋」が主催する夏休みキッズプロジェクトの一環イベントで「夏休み親子体験セミナー」として開催され、中部森林管理局もこのイベントに協力したものです。

参加した名古屋市内の親子九組二〇名は、はじめに東海農政局による開校式の後、森林で仕事をするための装備を着用した名古屋事務所職員が、森や木を使う大切さを紙芝居により話をすると日頃聞き慣れない日本の森林の現状や木を使うことの大切さに目を丸くして聞き入っていました。

セミナーの後、「FCA」九名の皆さんの指導を受けながら、スギ材のミニ椅子



「もっくん」作り、お母さんのほうが夢中だよ！



ミニ椅子の組み立て 設計図と悪戦苦闘中！

ちこちで聞こえるなど、親子で悪戦苦闘しながら参加者全員が三つの作品を作り上げました。

最後の閉校式では東海農政局消費・安全調整官から全員に修了証書が手渡され、参加者からは、「楽しかった」、「手が痛くなっただけでなんとか椅子を作りあげられて良かった」、「削った箸の匂い気持ちいいね」など感想が聞かれ、親子共々夏の終わりの充実した一日となったようです。

**富士見森林祭り二〇一六**

【技術普及課】八月二十七・二十八日の二日間、長野県諏訪郡富士見町の富士見パノラマリゾートにおいて、一般の方に森林や木を身近に感じてもらうことを目的として『山の日』制定記念「富士見森林祭り（ふじみもりまつり）二〇一六」が開催されました。森林・林業・木工関係者等が参加する当イベントに、中部森林管理局も参加しブース出展を行いました。

当イベントは、昨年まで一般社団法人木暮人倶楽部が主催してきた「木暮人祭り」を、地元の実行委員が中心となり運営する形式に改めたもので、中部森林管理局は、前身の木暮人祭りを含めて今年度で四回目の参加となりました。

ブースでは、ヒノキのマイ箸作り、除伐材の輪切りへの絵付け、ミニ椅子作

中部局では、これからも森林・林業関係のイベント等に参加し、森林・林業の大切さ、国有林について、ニホンジカ対策等をPRすることとしています。

「ミニ椅子作りを体験した方からは「自分の手で作るから愛着が湧く」、箸作りで初めてかんなを使用した子どもからは「するっとかけることができると気持ち良い」といった声がありました。初日は、あいにくの雨天でしたが二日目には天候に恵まれ、親子連れや地元の方を中心に約一五〇名がブースを訪れ木工クラフトやパネル展示を楽しんでいました。



中部局のブース



帆足治山技術官からの説明

完了とともに県へ引き継ぐため、施設の設置状況や効果について理解が深まるように心がけ、現場を案内しました。当日は、台風13号の接近に伴う前線の影響で天候が心配されましたが、幸いにも雨に降られることなく予定していた研修を無事終えることができました。現地では、帆足治山技術官（姫川治山事業所）から山腹工事における緑化試験の成果や今後の施設計画などについて説明が行われ、参加者からは資機材の運搬方法や冬期における積雪の影響など、多くの質問が出されました。

また、既設谷止工の補修工事（増厚・高上げ）現場では、長野県での施工事例が少ないこともあり、目的や構造等について意見が交わされました。次に、地すべり防止工事を行っている

「治山課」長野県主催の技術研修が九月七日、中信森林管理署管内にある民有林直轄治山事業地（姫川地区）において開催され、長野県森林づくり推進課及び各地方事務所から十二名の治山担当者が参加されました。

姫川地区においては、直轄治山事業と直轄地すべり防止事業を行っており、両事業とも長野県等からの要請を受け、昭和四十八年度に事業着手しています。現在、平成三十三年度の完成に向け、事業は佳境を迎えつつあります。

直轄事業で設置してきた施設は、事業

### 長野県主催、治山技術研修を 中信署管内で開催



地すべり防止工事の集水井の見学

木地屋川区域を案内し、集水井の排水ボーリングを見学していただきました。井筒の構造や安全対策に至るまで幅広い意見交換が行われ、現場見聞による技術者間の交流が図られました。今回の技術研修では、参加者との活発な意見交換により、有意義な情報共有が図られたと思います。十月中旬には、伊那谷総合治山事業所管内にて直轄事業地を案内する計画もあり、中部森林管理局治山課としては引き続き、長野県等と連携・調整を図りながら直轄事業を着実に進めていきたいと考えています。

### 各地からのたより

#### 富山県との協働事業

「とよまの山岳環境整備ボランティア」を実施

「富山署」八月十一日の山の日制定を記



滑り止め板を設置作業中



外来種の除去作業中

念して、「とやまの山岳環境整備ボランティア」を、八月七日ブナ坂国有林立山弥陀ヶ原において開催しました。

本事業は富山県自然保護課が主体となり、立山をベースに活動する、環境省・林野庁・(独)国立登山研修所など国等の機関や、富山県警山岳警備隊、富山県ナチュラリスト協会、名古屋林業土木協会富山支部等が共同し実施したものです。

当日は、十歳から七十歳まで約一〇〇名の県民ボランティアと、国・県・各種団体等のスタッフを合わせ、約一六〇名が参加しました。開会式では、山本生活環境文化部長から「事業の目的」、中島署長から「木道整備の意義や安全作業」について話がありました。午前中は、弥陀ヶ原に設置した木道が降雨や濃霧等に



こんなに沢山の方に参加していただきました

よって滑りやすくなることにより、怪我をする利用者が増えたことに対応するため、砂などを混ぜた特殊な滑り止め板を設置する作業を実施しました。

午後は、オオバコやシロツメクサなど本来この地域には自生しない外来種除去作業や、県ナチュラリストによる自然観察会など、十二班に分かれて活動しました。

当署からは、中島署長ほか十名の職員と国有林野保護管理協議会が雇用している「高山植物保護監視員(通称グリーン

パトロール)」八名が参加し、各班の責任者・指導者等として、県民ボランティアの方々とともに、利用者の安全確保のため、山岳環境整備に汗を流しました。

事業実行中は、歩道を散策する方々から「滑りやすいので滑り止め板の設置は助かります。」「暑い中お疲れ様です。」「など激励の声を沢山いただき、今回実施した木道整備の大切さを再認識するとともに、今後も県民ボランティア・国・県・関係団体等が協働し、木道整備や外来種除去等に取り組んでいく必要があると感じました。

**公共施設の確認に関する  
自治体との協定を締結**

「東濃署」平成二十八年八月十日に中津川市、恵那市と公共施設の確認に関する協定を締結しました。

最初に高塚署長から「私たちは国有林の保全管理のため日々山間奥地へ足を運んでおり、日頃、市の職員の目が届かない公共施設に異常があった場合に連絡す



中津川市長と高塚東濃署長(右)



恵那市長と高塚東濃署長(右)

る協定を締結することで、より一層の地域貢献ができればと考えている」との趣旨説明を行いました。

中津川市長からは「中津川市は山に囲まれており、山を活用する施設もあるが、職員が常時点検することが困難なところもある。森林管理署職員が気づいたところをお知らせいただくことは安心する」との挨拶がありました。

恵那市長からは「最近、施設の管理責任を問われる事案が発生しており公共施設の点検について職員に指示している。そうした中で森林管理署からも情報をいただけることはありがたい」との挨拶がありました。

市長の挨拶の後、協定書に署名し協定が締結されました。

今後は、リスト化した公共施設を毎年度当初に見直しをかけ、有益な協定となるように両市と連携を図ることとしています。なお、瑞浪市についても、国有林があり、準備が整い次第協定を締結することとしています。

### 恵那農業高校生が 林業の現場を学ぶ (伐倒体験)

〔東濃署〕岐阜県立恵那那農業高等学校環境科学科の生徒が東濃森林管理署管内の国有林で立木の伐倒体験を行いました。

これは、東濃森林管理署と岐阜県立恵那那農業高等学校、岐阜県恵那那農林事務所の三者が連携して取り組み、同校環境科の生徒、一年生から三年生を対象に三年間を通して、地域の森林や林業現場の視察・体験をすることで、林業を将来の進路の選択肢の一つとして関心を持ってもらうことを目的に、平成二十五年より実施しているものです。



間伐について現地説明の様子



初めてチェーンソーで伐倒作業

今年度、その一回目として八月二日に、「森林の管理の一つである間伐を体験し、間伐の目的を理解するとともに、器具の使用方法和安全確保についてを学ぶ」をテーマに、三年生八名が当署の製品生産事業地である明知国有林一、一一一林班でチェーンソーを使用して立木の伐倒体験を行いました。

生徒たちは、間伐の目的と必要性、間伐の方法などの説明を受け、その後、当事業地で作業を行っている恵那森林組合の職員二名からチェーンソーの使い方、伐倒の手順や方法、伐倒時の安全対策についてきめ細かな説明を受け、伐倒のデモ

ンストレーションを見学した後、二班に分かれ保護具を着用して一人ずつ伐倒作業に挑みました。

生徒たちは、恵那森林組合職員の手ほどきを受けながら、木の傾きや、伐倒方向、退避場所を確認し、受け口を作り、ツルを切りすぎないように追いつき口切りを行い慎重に作業を進めました。

チェーンソーを使用するの伐倒は初めてという生徒がほとんどで、恐る恐る戸惑いながら作業を行っていました。伐つた木が、予定していた方向に倒れた時は、周りから拍手と歓声が上がりました。

続いて、当事業地で使用している高性能林業機械プロセッサの作業状況を見学



プロセッサの説明に聞き入る生徒たち

しました。林業も機械化が進み、人力で行っているのは伐倒作業だけだとの説明を受け感心していました。

作業を終えた生徒からは「伐倒は気を使う難しい作業であったが、体験できて良かった」、「林業は、森林を守る大切な仕事であることを再認識できた」との感想が聞かれました。

今後、三者の連携による「木曾ヒノキ備林の見学会」、「地域の森林・木材産業界見学会」と二回の勉強会を予定しています

### 行事・会議等の予定

- ◎ 林道事業現地検討会  
10月5～6日 岐阜署管内
- ◎ 事業担当部長会議  
10月5～6日 林野庁
- ◎ 発注者網紀保持委員会  
10月11日 中部森林管理局
- ◎ 第二回植生管理専門部会兼  
第一回保護林復元部会  
10月18日 中部森林管理局
- ◎ 第2回森林管理署長等会議  
10月19～20日 中部森林管理局
- ◎ 造林事業現地検討会  
10月26～27日 愛知所管内
- ◎ 木曾の国有林見学会 2016秋季  
10月27日 赤沢国有林



「木曾署 開田森林事務所」

森林官 原 浩美

開田森林事務所は、長野県木曾郡木曾町開田高原に所在し、「木曾馬とそばのふるさと」として名高い旧開田村の御嶽山北部の裾野から松本市、木曾郡木祖村境までの約五、三〇〇畝の国有林を管理しています。この三月までいた私の前任地が下伊那郡大鹿村で「日本で最も美しい村」連合に真っ先に加盟したのですが、ここ開田高原地区も同連合に加盟して自然豊かな素朴な雰囲気にかかわらず感じています。今年には木曾路全体が日本遺産に認定されたことで、開田高原の自然の魅力と文化が一層アピールされたものと感じています。また、開田高原に

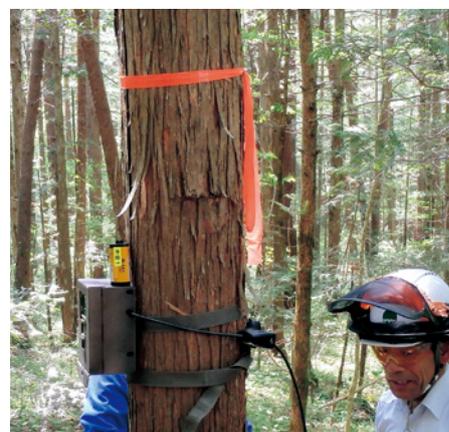


御嶽山を望む開田高原

は町村合併の際に開発基本条例が制定され地域住民が一体となって観光地化から地元・郷土を守っていこうという意識の高いところでもあります。

高いといえば、当森林事務所があるところは標高一、二二メートルで、真夏の日中はそれなりに暑いのですが、朝晩は涼しさを感じる時もあります。現在、当森林事務所は私のほかに経験豊富な行政専門員の方が四名いて、赴任してきた当初から山のことや当事務所の歴史、また地域のことなどいろいろ教えていただきながら現場の業務に携わっていただいています。

開田森林事務所内は、木曾谷のなかでもヒノキよりカラマツの人工林が多いところですが、標高が高く、寒風害の恐れのあることや、火山灰を含んだ土壌形成がヒノキの生育に向かないことがカラマツ指向になったのではないかと考えられますが、ここでも昨今、獣害被害が見受けられるようになりました。今までは剥皮被害などほとんどなかった良質のヒノキ林が、熊被害に遭いリンロンテープによる造林木の保護対策を行ったり、ニホンジカやイノシシの目撃情報もあることから、センサーカメラを設置して生息状況を把握するとともに、地元猟友会と情報交換など連携してくりくり罠による捕獲・駆除委託を、今年度から導入して獣害被害対策に取り組んでいます。ただ、国有林の多くにササが多いため、前任地のよ



センサーカメラの設置

うに罠をかければニホンジカがかかるという訳にはいかず、設置箇所の選定などに苦慮しているところです。一方、開田高原の国有林のカラマツは冷涼地で育っていることもあって比較的質が良い、と言われていています。よりよい森林作りのため、除伐・間伐など保育の手のかけ方はどうかなど周囲に教わりながら山を見る目を養いつつ林野巡視などを行っています。

木曾谷では二年前に甚大な御嶽山の噴火災害が発生しました。幸い、開田高原方面には大きな影響はありませんでしたが、一時風評被害にかなり悩まされたそうです。もともと、開田登山口からは歩行時間がかかることから御嶽山登山者はさほど多くはありませんでしたが、別ルートへの入山規制の影響により開田登山口からの登山者が微増しています。地域においては、小学校が近いことから教育活動ボランティアで開田小学校



木曾馬「あきな号」

います。このような環境の中で、試行錯誤しながらも安全第一で森林官業務を遂行していきたいと考えています。

援団に登録をしたり、これまでの関わりがある関係各方面や地域おこし関係者などつながりが持っているとありますが、その中でいかにして森林・林業にふれあっていたらいいのか、地域に貢献できることは何か、と模索しているところです。

最後に余談ですが、三年前まで永年、私の生家（上松町）で飼っていた木曾馬「あきな号」が開田高原の牧場に引き取られこの春に雌の仔馬を産み、その仔馬は秋には高山市へ行くそうです。そのような経緯もあって開田高原には親しみを感ずるところですが、開田高原の冬は厳しいので、と今から脅かされて恐ろしく



森林事務所職員一同（中央が筆者）



高杜山より北信五岳を望む



濃富士とも呼ばれています。周辺の山域に分布するチシマザサは江戸時代からザルなどの竹細工の材料として

○黒姫山 二、〇五三メートル

どつしりとしたコニーデ型火山で、信濃五岳と言いますが長野県ではなく、新潟県に所在しています。新潟では火打山、焼山とともに土地の名を取って頸城三山と呼ばれています。

○妙高山 二、四五四メートル

五岳の中で最も高い標高を誇ります。北信五岳と見えますが、どの場所からも最も東北側に見える山です。

○斑尾山 一、三八一メートル

北信五岳の中で標高が一番低く、他の五岳と比べても斑尾山は際立って低くもかわらず、北信五岳の一つとなっています。これは五つの山を中野市周辺から眺めた場合、一番近い斑尾山が他の山と比べても同じような高さで見えるためです。また、見える順番は場所により変化しますが、どの場所からも最も東北側に見える山です。

北信森林管理署が所在する長野県の北東部は、通称「北信地方」と呼ばれています。長野と新潟の県境にある五つの単独峰を総称して、北信五岳といひ、善光寺平（長野盆地）の西北部に連なっています。

濃富士とも呼ばれています。周辺の山域に分布するチシマザサは江戸時代からザルなどの竹細工の材料として

どつしりとしたコニーデ型火山で、信濃五岳と言いますが長野県ではなく、新潟県に所在しています。新潟では火打山、焼山とともに土地の名を取って頸城三山と呼ばれています。

○飯縄山 一、九一七メートル

南山麓の飯綱高原は湿地や湖が多く、植物や野鳥の宝庫となっています。手軽に登れることから小学生の登山教室、親子ハイキングとして人気があります。山頂からの三六〇度パノラマの眺望では、長野市方面や戸隠連峰、黒姫山など、他の北信五岳が間近に迫り、遠くに北アルプスを望むことができます。



蟻の塔渡り、剣の刃渡り

奥社からの登山道には、「蟻の塔渡り、剣の刃渡り」と呼ばれるナイフリッジがあります。

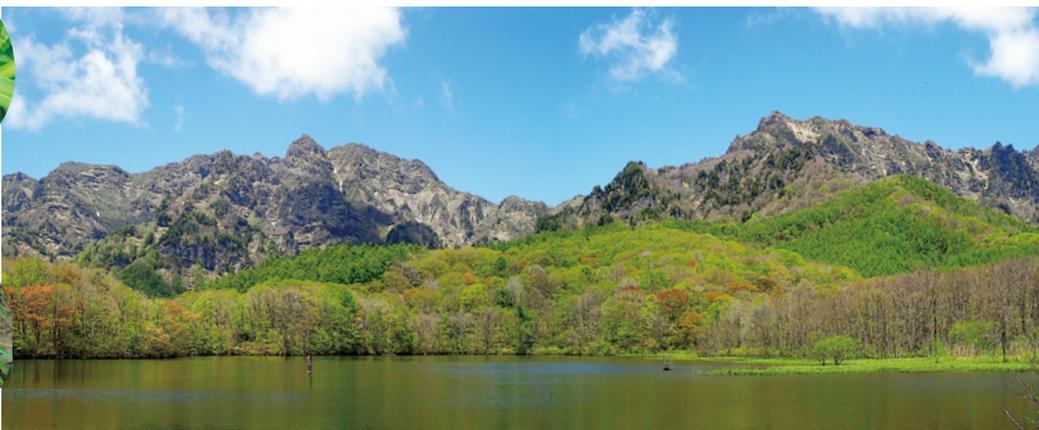
利用されています。狭義の戸隠山は一ピークに過ぎませんが、広義の戸隠山は西岳から高妻山にまで屏風のように連なる広い範囲を指します。



キバナアツミノソウ



オヤマリンドウ



戸隠山と鏡池

同じ年齢を問わず楽しめるエリアとなっています。皆さんも是非お越しになってはいかがでしょうか。